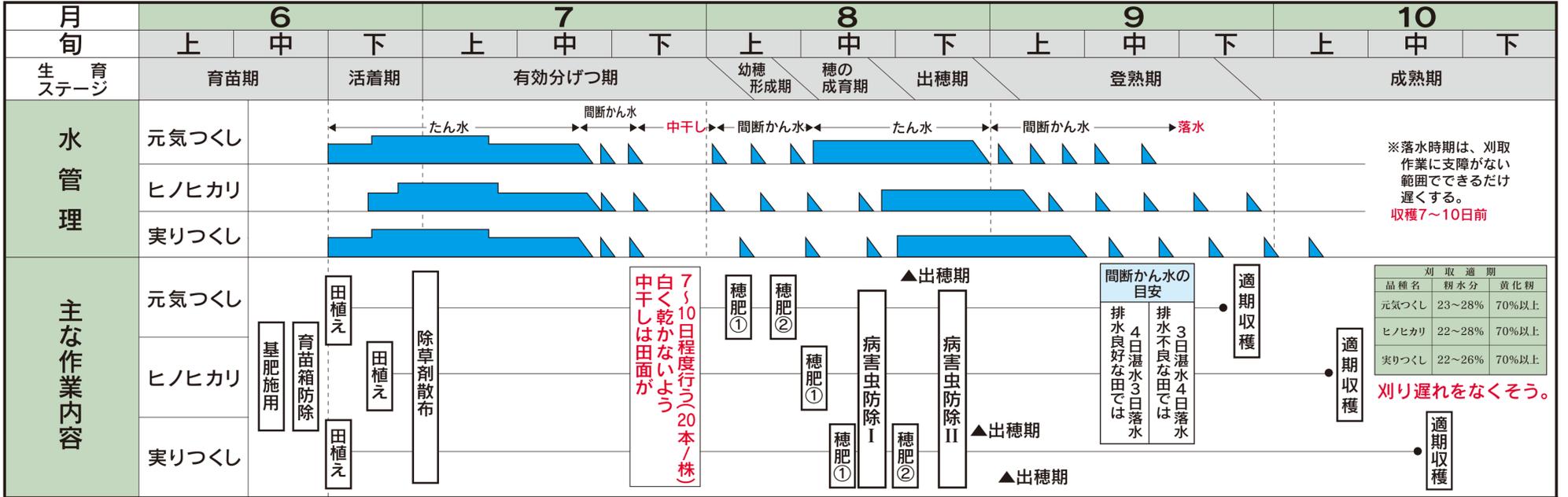


定期的には場巡回を行い生育を把握し適期管理に努めましょう。



時期	播種時(覆土前)~移植当日	移植後 収穫60日前まで	出穂30日前~5日前まで	8月上旬~中旬 (栽培情報参照)	8月下旬 (栽培情報参照)	9月上旬 (栽培情報参照)
対象病害虫	ウンカ類、コブノメイガ、いもち病	スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)	いもち病	ウンカ類、カメムシ類、コブノメイガ、紋枯病	ウンカ類、カメムシ類、コブノメイガ、いもち病、紋枯病	ウンカ類、カメムシ類
病害虫防除(基本)	元気つくし 防人箱粒剤 50g/箱 ヒノヒカリ 実りつくし プーンクロス箱粒剤 50g/箱	スクミノン 1~4kg/10a	コラトップ ジャンボP 10~13パック/10a	粉剤体系 ワイドナーエース粉剤 DL 4kg/10a 液剤体系 スタークル液剤10 1,000倍 100ℓ/10a オーケストラ ロムタンモンカットエア 1,000倍	粉剤体系 ノンプラスレバリダ 粉剤DL 4kg/10a 液剤体系 ノンプラスバリダフロアブル 1,000倍 100ℓ/10a トレボンEW 1,000倍	粉剤体系 エクシード粉剤DL 3kg/10a 液剤体系 エクシードフロアブル 2,000倍 100ℓ/10a
注意点	上記の2剤についてはいぐさ栽培予定水田での使用不可(苗床・移植等)			無人航空機体系 スタークル液剤10 8倍 0.8ℓ/10a オーケストラ ロムタンモンカットエア 8倍	無人航空機体系 ノンプラスバリダフロアブル 8倍 0.8ℓ/10a トレボンエア 8倍	無人航空機体系 エクシードフロアブル 16倍 0.8ℓ/10a

※昨年紋枯病が発生した場合は、プーンハーデス箱粒剤 50g/箱を使用する。



除草剤防除基準 いぐさ近隣田では使用しない。

◎初・中期一発除草剤

剤型	薬剤名	10a当り使用量	使用時期	使用上の注意点
粒剤	エンペラー 1キロ粒剤	1kg	移植直後~ノビエ3葉期	移植同時処理が可能である。
	トップガンR 1キロ粒剤	1kg	移植直後~ノビエ3葉期	
	サラブレッドGO 1キロ粒剤	1kg	移植直後~ノビエ2.5葉期	
ジャンボ剤	エンペラージャンボ	10パック	移植直後~ノビエ3葉期	湛水状態(5~6cm)を保つ。
	トップガンR ジャンボ	10パック	移植直後~ノビエ2.5葉期	
	サラブレッドGO ジャンボ	10パック	移植直後~ノビエ2.5葉期	
豆つぶ剤	エンペラー 豆つぶ250	250g	移植直後~ノビエ3葉期	

使用上の注意事項
 ●使用基準を厳守し、適正な使用に努め、降雨直前、直後の処理は避ける。
 ●散布時に田面を露出させないよう注意する。また、藻やワラズなどの浮遊物がある状態では効果が落ちるので取り除く。
 ●散布後は、3~5cmの湛水状態を保ち、7日間は、水を落とさない。
 ●薬害のおそれがあるので、漏水田での使用や散布直後の補植、極端な深植や浅植、軟弱苗の使用は避ける。
 ●移植同時処理は、薬害が出やすいので、処理後できるだけ早く入水し、オーバーフローが起こらないように止水する。(除草効果安定、薬害軽減のため)土の戻りが悪いところは使用しない。

◎中・後期除草剤

雑草の種類	薬剤名	10a当り使用量	使用時期	収穫前日数
イネ科雑草	クリンチャー 1キロ粒剤	1kg	湛水 移植後7日~ノビエ4葉期	30日前まで
	クリンチャーEW	100ml(水25~100ℓ)	湛水 又は 落水 移植後20日~ノビエ6葉期	30日前まで
広葉雑草	バサグラン粒剤	3~4kg	落水 移植後15日~	45日前まで
イネ科・広葉雑草	レプラスジャンボ	10パック	湛水 移植後14日~ノビエ4葉期	60日前まで
	ロイアント乳剤	200ml(水25~100ℓ)	湛水 又は 落水 移植後20日~ノビエ5葉期	45日前まで
	クリンチャーバスマE液剤	1000ml(水70~100ℓ)	落水 移植後15日~ノビエ5葉期	50日前まで

※初・中期一発除草剤および中・後期除草剤の使用はそれぞれ1回までとする。
 ※散布時は、周辺作物に薬液が飛散しないよう十分注意してください。
 ※クリンチャー EWを混用せずに単剤で散布する際は、効果を高めるため展着剤(サーファクタント30)を加用する。
 ※ロイアント乳剤を落水散布する場合は、効果を高めるため散布後3日以内に入水する。

令和8年産水稲栽培管理記入欄

★「作付品種名」「作付面積」「主な作業月日」を記入して下さい。

品種名 作付面積	5月		6月		7月			8月			9月			10月		
	中旬	下旬														
a	種子消毒	播種	田植え	雑草防除	穂肥	病害虫防除	出穂日	病害虫防除	収穫							
作業月日	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /
a	種子消毒	播種	田植え	雑草防除	穂肥	病害虫防除	出穂日	病害虫防除	収穫							
作業月日	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /
a	種子消毒	播種	田植え	雑草防除	穂肥	病害虫防除	出穂日	病害虫防除	収穫							
作業月日	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /	/ ~ /

★農薬は保管庫等に入れるなどして、きちんと管理しましょう！

土づくり ○取量品質安定のために下記の土壌改良資材を施用しましょう。

資材名	施用量(kg/10a)	備考
ミネラルG	140~200	ケイ酸・鉄分の補給
カキテツ	90	ケイ酸・鉄分の補給
けい酸加里	40	ケイ酸・加里の補給
アヅミン	40	腐植酸の補給
土力の素	45	腐植酸・加里の補給

施肥基準 晩稲一発 晩稲一発(kg/10a) 初数過剰による粒の充実不足を防ぐために多肥(特に基肥)栽培は避けること。

成分(N-P-K)	一発肥料の場合		基肥		穂肥①	穂肥②
	晩稲一発	晩稲一発	ちくごのめぐみ444	ちくごのめぐみ444	NK化成2号	NK化成2号
	20-10-10	20-10-10	14-14-14	14-14-14	16-0-16	16-0-16
元 気 つ く し	前年 水稲作 30	前年 大豆作 25	前年 水稲作 25	前年 大豆作 20	15	10
ヒノヒカリ	30	25	25	20	15	
実りつくし	25	20	20	15	15	10

※一発肥料について:①地力により施肥量を加減する。②葉色が薄く推移するが、肥効が持続するので追肥はしない。③なるべく田植に近い時期に施用する。

○施肥改善による玄米タンパク含有率の低減(目標6.8%以下)
○実りつくしについては、倒伏防止のため施肥量に注意!

「JA米」の生産基準

- 生産資材の選択
 - 種子更新100%
 - 使用する肥料、農薬等の資材は、原則としてリストに記載されているもの
- 肥培管理及び除草、病害虫防除
 - 施肥基準及び農薬の安全使用基準の遵守
- 収穫、出荷
 - 適期収穫と麦粒の混入防止
- 生産履歴の記帳・点検
 - 栽培管理表に記入漏れや間違いがないかの確認
 - 栽培管理表は自己点検チェックシートと一緒に提出
- 分別出荷・表示及び不適合品
 - 要件を満たさない米は、JA米として扱われませんので注意しましょう。

★購入・使用のつど、ラベルを確認する! ★農薬の飛散防止に気をつける!
★散布器具はきちんと洗浄する! ★農薬の使用状況を記録する!

★生産履歴記帳により安全・安心で品質の良い米を消費者に届けよう!!

●農家自ら進めよう。米の消費拡大! ●農薬購入の際は印鑑が必要です。
●稲ワラ・麦ワラは流出防止や土づくりのため、堆肥と交換するか全量すき込みましょう!